

入学式



入会式



総会



PTA会長 平内 真一郎

親の笑顔は 子どもの笑顔

令和7年度PTA会長になり四ヶ月、会員の皆様にはPTA活動にご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。4月の総会に始まり、5月の花壇整備、6月の体育祭、県高P連下北むつ大会、7月登校時一声運動、大高祭での出店、東北高P連等各種活動を皆様のご協力のもと無事行うことができました。重ねて御礼申し上げます。今後皆様には是非積極的にご参加いただき、「できる人ができる時にできる事をやる」を motto に無理のない範囲でご協力いただけたら幸いです。それぞれの暮らしの中でのそれぞれにできる形で子どもたちの学校生活を支えられるように、保護者や先生方、関係者が子どもたちの健やかな成長を見守りながら仲良く笑顔で活動できるPTA活動を目指して参ります。是非とも子どもたちの笑顔のため、今後ともPTA活動へのご協力の程よろしくお願いします。
「全ては笑顔の為に」



校長 伊藤 文一

子どもを 幸せにする方法

『イソップ寓話集』に「盗みをした子供と母」という話がある。
「子供が学校から同級生の書物板(※ノートに相当するもの)をこっそり盗んで母に持ってきました。しかし、母は彼を叱らないばかりか、かえって彼を誉めましたので、二度目には着物を盗んで彼女に持ってまいりました。しかし彼女は前よりもいっそう誉めましたので、歳が進んで若者になった時には、もう、もつと大事なもののまでも盗もうと企てました」(引用は山本光雄訳『イソップ寓話集』岩波文庫)

この子は悪事を重ね、とうとう捕まって死刑執行人のもとへ連行された。母は泣き叫びながら、連行される子の後を追ったが、「母の耳に入れたいことがある」と子が言うので、母が耳を近づけるや、なんとこの子は母の耳を食いちぎって、次のように言うのだった。

「私が初めて書物板を盗んであなたに持って行ったあの時に、もしあなたが私を叱って下さったら、こんなに高じて死刑を受けにひっぱられて行くほどにはならなかったでしょう」(引用は山本光雄訳『イソップ寓話集』岩波文庫)

親は、「勉強道具をとるとは勉強熱心な子だ」と考えたのかもしれない。着物を盗んだときには「親を助けようとしてくれた」と考えたのかもしれない。そしてその子は、本当に勉強熱心で、親思いの子だったのかもしれない。しかし、子が「窃盗」を犯していることは動かないのである。美しい理由に目を奪われて、この子の悪の心は大きく育ってしまった。学校サイドの人間としては、学校は、この子と母にどんな指導を施したのか気になるのだが、寓話集に記述は無い。

悪いのは誰なのか。親か？子か？学校か？

言えるのは、「犯人探し」をしても、子どもは幸せにならないということだ。親、学校そして子が、それぞれ都合の悪いことから目を背けず「これからどうしたらよいか」を考える必要がある。ただし、手遅れにならないうちにはあるが。

PTA活動の様子



花壇整備



登校時一声運動

令和7年度役員一覧

役職	氏名
会長	平内 真一郎
副会長	古郡 友哉
	伊藤 一成
	井本 貴成
	畑中 俊光 (教頭)
監事	川畑 香
	祐川 美保子
	松村 香子
1年次委員長	濱田 大臣
副委員長	三上 裕太郎
	澤谷 政和
2年次委員長	長津 亜紀江
副委員長	鎌田 綾子
	菊池 静香
3年次委員長	木村 理
副委員長	小林 桂子
	小類 冬司

高P連下北むつ大会



大高祭



7月1日、2日に役員4名が高P連東北大会に参加しました。

研究協議

「個々の力を生かすPTA活動とは」をテーマに各県代表の発表があり、大変勉強になった。子どもたちにとって全ての経験が教育。先の見えない時代の中、家庭、学校、地域、この三者がより一層一体となり、これからのPTA活動を行うことが大切だと改めて感じた。

講演

やれる理由こそが着想を生む「はやぶさ」「はやぶさ2」を完遂させた力！

川口 淳一郎氏

「何かしたいと思った時はまずは行動をしてみる。失敗を恐れてはいけない。行動を起こしてからこそ見えないものが見えてくる。」という言葉にとっても共感しました。失敗を恐れるな・失敗から学べとなかなか言いづらい世の中だが、これからの未来を担う子供たちにはとても重要な言葉だと思います。子供たちのチャレンジ精神を養うためにも、このような言葉をかけてみてはいかがでしょうか。